



藻場造成の経済効果 対照区(磯焼け漁場)と設置区(再生藻場)のウニの実の状態

「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクール応募団体 美国・美しい海づくり協議会／余別・海HUGくみたい 【積丹町】

ウニから始まるSDGs～ウニと藻場の循環型再生産システムの実践

【はじめりは？】

積丹町では、町の特産品であるウニが、磯焼け現象により減少していました。積丹町の漁業者で構成されている当組織は、ウニの生産量の減少を食い止めることを目的に、海の森づくり（ホソメコンブの藻場造成）を平成21年度から開始しました。

【おもな活動】

当組織は、ウニの安定生産・供給のため、ウニの餌となるホソメコンブの養殖や廃棄物であるウニ殻を施肥材として利用した藻場再生により、持続可能な漁業を推進しています。

また、水産と畜産の連携の取組として、町内の農業法人が飼育する羊の餌に養殖コンブを与えることで、肉質を向上させたり、積丹町地域活性化協議会が行う海藻などの水産物を利用した商品開発にも協力しています。

漁業と環境保全の理解増進のため、地元の小学生を対象とした体験学習や、町内外の小学生や都市部の一般市民を対象としたセミナーを開催し、これらに用いるプロモーション動画の作成も行っています。



コンブの餌を食べる「しおかぜ羊」



漁業への理解増進活動（ウニ養殖見学会）

【ここが自慢】

ウニ殻肥料による海の森づくりで藻場が再生され、その藻場で育ったウニを漁獲するという「ウニと藻場の循環型再生産」が実現し、ウニの生産量と品質が向上するとともに、SDGsの目標達成にも寄与しています。藻場の保全・創造は、二酸化炭素の吸収源となるため、当組織は「ブルーカーボンプレジット」の取引を行い、得られた資金を藻場造成の拡大に利用することを計画しています。

積丹町では、これらの活動により、「自然、人、産業の和で築くまち」を目指しています。



ウニ殻肥料づくり



ホソメコンブの収穫作業

連絡先

代表者名：白川 浩治さん 澤 貴幸さん／設立：2008年／会員：123名

住所：積丹郡積丹町大字美国町字船濶48番地5

電話番号：0135-44-3382

FAX：0135-44-2125

E-mail：nourin@town.shakotan.lg.jp

URL：



新鮮野菜と笑顔でお待ちしています

「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクール応募団体

にじいろファーム

【七飯町】

農業のすばらしさ、楽しさ、やりがいを伝えたい！

【はじまりは？】

家庭菜園をきっかけに野菜作りに魅力を感じ、もっといろいろな野菜を作って、たくさんの人に食べてもらいたいと思うようになり、新規就農を目指しました。相談した町役場から紹介を受けた農家さんの元で研修を受けて2020年4月に独立、「にじのように色とりどりの新鮮な美味しい野菜を皆様にお届けしたい！」という思いから名前を「にじいろファーム」にしました。

【おもな活動】

自分たちの農園では、七飯町を代表する白かぶ、人参、大根、長ネギを含めた約40品目の野菜を栽培しています。

毎年全国各地から修学旅行生の農業体験を受け入れています。次世代の子どもたちに七飯町の農業の魅力を伝えるため、地元中学生の職場体験も実施しています。

就労支援事業所と農福連携にも取り組んでおり、農業に携わることで少しでもやりがい、生きがいを感じてくれたら良いと思っています。



修学旅行生の「白かぶ」収穫体験

【ここが自慢】

【美味しい食べ方をご紹介します】

直売所では農家約30軒と協力して山菜、果物などを含めて年間約150種類を販売しています。時期や収穫状況に応じて野菜の詰め放題も楽しめます。

近郊で開催されるイベントにも積極的に参加して、お客さんとの会話を大事にしています。

ちょっと珍しい野菜の紹介や食べ方のレシピなどで、より七飯の野菜の魅力を知ってもらうため、店内にはポップを作って伝えています。



店内いっぱい新鮮野菜が並ぶ

連絡先

代表者名：西山健児さん／設立：2020年／会員：50名

住所：北海道亀田郡七飯町桜町37-1

電話番号：070-4002-5623（営業期間中のみ）

F A X：

E-mail：

URL：<https://www.facebook.com/nijiirofarm.4783/>



体験農場での収穫体験

「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクール応募団体 特定非営利活動法人 山のない北村の輝き

【岩見沢市】

～ いつまでも大切な故郷 ～

【はじめは？】

地域住民に対して地域のまちづくりのため、旧美唄川の「水辺の楽校」を拠点として、地域の風土を学び、適正な河川利用と環境の保全、地場産業の活性化などに地域住民の声を反映させるなど、よりよい「まちづくり」の創造と国土の保全に寄与することや、市町村合併等により人口減があっても、「北村地域に何かを残したい」、「子供たちが大きくなった時に帰ってきたいと思えるような故郷にしたい」との思いから、平成16年にNPO法人として発足して活動を行っています。

【おもな活動】

河川環境の維持や植樹の活動のほか、農泊やキャンプをしながら農作業や収穫などを体験できる企画や、自然景観を堪能できるカヌー体験などのツアー、ガイドによる北村地域の歴史見学の実施などにより、地域内外での交流を図っています。

また、「北村の歴史ガイドブック」や「北村三兄弟物語」といった北村の歴史に関する副読本を作成しており、歴史ガイドツアーにも活用していく予定です。



石川啄木の碑
(北村豊里)



北村三兄弟物語

【ここが自慢】

農場での収穫や発送といった農作業の体験、地元の食材を使った伝統料理の調理や試食、わら細工の作成体験のほか、植樹と歴史見学を組み合わせたツアー、雁里沼でのカヌー体験、冬には広大な雪原をウォーキングするスノーシュー体験やかさぎ釣り体験等、季節に関係なく楽しんでもらえる体験メニューが盛りだくさんです！



植樹&歴史見学ツアー



カヌー体験

連絡先

代表者名：石黒武美さん／設立：H16年／会員48名

住所：

電話番号：

F A X：

E-mail：

U R L：



広尾町



広尾町を訪問した全てのの人に自然や産業を楽しんでももらいたい

「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクール応募団体

ピロロツーリズム推進協議会

【広尾町】

広尾町の一次産業・景観の魅力を体験型観光により提供

【はじまりは？】

「広尾町の魅力を伝えるために何かできないか？」との思いを共有するメンバーで、令和元年にピロロツーリズム推進協議会を立ち上げました。

酪農と漁業と林業の一次産業を繋ぎ、体験型観光や地域の海産物を使った商品開発などを通じて広尾町の魅力を伝え、みんなが広尾町に来たくなるきっかけづくりをしています。

【おもな活動】

ピロロツーリズム推進協議会では、一次産業や景観資源を活用した体験型観光プログラムの企画・運営を活動の軸とし、広尾町産食材を活かした特産品開発及びプロモーション、ワークショップの企画・運営のほか、地域ガイドブックの作成など、多様な取組を行っています。

- ・酪農・漁業・林業体験
- ・地域特産品の開発（サンタのつぶやき、星屑昆布）
- ・地域ガイドブック（PIRUY＜ピルイ＞）の作成
- ・体験型観光でのワークショップ



サンタのつぶやきの販売

※「サンタのつぶやき」とは、たこ焼きの具材を広尾産の「つぶ」に置き換えた商品

【ここが自慢】

【広尾町には多くの“魅力”があります】

体験型観光や特産品開発をはじめ、漁業に関わる一連の取組が評価され、第28回 全国青年・女性漁業者交流大会、第5分科会「多面的・環境保全部門」で農林水産大臣賞を受賞しました。

広尾町には、日高山脈が織りなす景観や多様な一次産業といった地域資源が存在しています。広尾町の魅力を多くの人に伝えるために、これからも活動を展開していきます。協議会の活動がきっかけで広尾町への移住にまで繋がれば嬉しいです。



漁業体験（体験ツアー）



星空鑑賞（体験ツアー）

連絡先

代表者名：菊地 亜希さん／設立：2019年／会員：7名

住所：北海道広尾郡広尾町字野塚989番地

電話番号：

FAX：

E-mail：pirorokikaku@gmail.com

URL：https://pirorokikaku.com/